

生活科学部同窓会

[2011.11.3発行]

NEWS LETTER

大阪市立大学生活科学部同窓会事務局

TEL:06-6605-3418/FAX:06-6605-3423

e-mail:seika@osaka-cu.com

http://www.osaka-cu.net/seika/

詳しくは **生活科学部同窓会**

検索

GREETING ご挨拶



同窓会会長

平野久美子

まず初めに、東日本大震災ならびに台風12号、15号で被災された皆様
心からお見舞い申し上げますと共に被災地の一日も早い復興をお祈り申し
上げます。

同窓生の皆様には、日頃から、母校ならびに同窓会に温かいご支援をたま
わり、厚くお礼申し上げます。

私は会長に就任して今年度の総会で2期4年になります。

この間、母校は平成22年11月に創立130周年を迎え、これを記念して「大
阪市立大学羽ばたけ夢基金」が設立されました。本同窓会も基金への寄付募
集活動を支援してご寄付のお願いを申しあげましたところ、多くの方からご協
力をいただきまして、ありがとうございました。募集期間は平成26年9月30日
までですが、期間終了後もご寄付の受付は継続しますということですので、今
後とも、よろしくお祈り申し上げます

また、創立130周年を記念して開催されました「芥川賞作家開高健展」にも
同窓会として支援いたしました。

その他、ホームカミングデーは全学部の同窓会が協力して、毎年11月3日に
大学祭と合わせて行っています。

昨年は昭和35年卒業生が、卒業50周年を記念して大学内の食堂で親睦
会を開催されました。同窓会として通信費を一部援助いたしました。本年は
50周年記念同窓会(昭和36年入学、40年卒)が大学内で開催され、ホームカ
ミングデーに参加されます。その他、同窓会総会と講演会などは2年毎に、
ホームカミングデーに合わせて開催しています。

ところで、現在、本学の同窓会組織は、商・経・法・文の卒業生でつくる有恒
会、理、工、生科、医、看、創造部市の7つありありますが、これらの組織を一本
化して、社会で活躍するOBたちが大同団結すれば、大学にとっても現役に
とって、大きな支助力になるのではないかと、全学部統一同窓会
結成を目指して動いております。

有恒会は現在、日本全国、北海道から九州まで24支部ありますが、ほとん
どの支部では大阪市立大学を卒業した全学部が一堂に会し、その交流の場を
広げておられます。本同窓生の皆様にも有恒会各支部から、案内が届いて
いることと思いますが、是非ご参加いただき、全学統一同窓会結成についてお考
え頂ければと思います。

最後に、同窓生皆様のご健勝をお祈り申し上げ、今後一層のご支援をお願
いしてご挨拶いたします。

EVENT イベント

HOME COMING DAY

2011年大阪市立大学生活科学部同窓会総会ならびに
第10回 ホームカミングデーのご案内

2011年11月3日(木・祝)皆様お誘い合わせてご参加ください。総会当日は大学
祭と全学同窓会連絡会が主催するホームカミングデーの開催中で、各種の
催しが一日中大学内で行われています。ご参加をお待ちしております。



▼2011年 生活科学部同窓会総会

田中記念館大会議場

10:00~10:30 総会

10:40~12:10 〈全学公開行事〉講演会

「巨大複合災害と生活復興」〈講演〉岸本 幸臣(羽衣国際大学長)
〈鼎談〉岸本幸臣 近藤誠司(NHK大阪) 宮野 道雄(大阪市立大学副学長)
在学生によるボランティア活動の報告

▼第10回 ホームカミングデー

各種クラブのOB会や展示会、講演会などがあります

13:00~14:50 〈全学共通行事〉記念講演会

「疲労の科学と疲労克服」大阪市立大学医学研究科 渡辺恭良教授
於 学術情報総合センター10階大会議室

【市大交響楽団OB現役交流音楽会】一般来場歓迎

15:00~16:30 於 高原記念館学友ホール

16:30~18:00 〈全学公開行事〉全学懇親パーティ

会費:2,000円於 旧教養キャンパス北食堂

※他、各学部同窓会催し物がございます。

**同窓会事務システム
についてのご案内**

生活科学部同窓会への住所変更他
のご連絡ならびにお問い合わせは、上記
の連絡先窓口へお願いいたします。な
お、今後の生活科学部同窓会からの
ご連絡につきましては同窓会ホーム
ページを活用してまいります。ぜひ一度
生活科学部同窓会のホームページを
ご覧ください。

http://www.osaka-cu.net/seika/

※JR阪和線杉本町駅を下車。
天王寺駅での各駅停車の普通電車にご乗車ください。
(快速は止まりません。)



生活科学・生活科学部の伝統と改革

生活科学研究科長・生活科学部長 多治見 左近



会
 員各位におかれましては
 ますますご清祥のことと
 存じます。

オープンキャンパスや新入生ガイダンスで必ず話していることがありますが、それは、大正10年に前身の西区高等実修女学校が創立されたときから実践教育を理念としていたこと、昭和24年に家政学部が創設された時から生活問題や社会問題の解決を目指していたこと、昭和50年に日本で最初に生活科学部に名称変更をし、同時に大学院を設置したことです。学部名称については、当初は生活学部で申請していたところ、文部省、国土の指導により家政学部になったと大学の百年史にあります。

このようなことから、本学部は先進的で高邁な理念をもった教育機関としてスタートしたと改めて認識できます。さらに、卒業生の皆様と先輩教員のご努力によって輝かしい実績が積み重ねられ、今日の評価を得ていることは感謝に堪えません。

今日、教育機関は多くの重い課題を抱えています。しかし本学部はこれまでの蓄積を基盤として学生、教員がさまざまな取り組みをし、成果を挙げております。科研費等外部資金の獲得はもとより学内の競争的研究資金でも、小世帯ながら規模以上の成果をあげていると自負しております。

また多数の研究成果はもちろんですが、学部理念に通じる地域貢献として、例えばJR杉本町駅東口新設への現代GP「COLL」モニター

ター育成による地域活性化」の貢献や大阪豊崎の長屋を再生・活用して地域活性化と教育に活かす取り組みなどがあり、社会的にも高い評価を得ています。教員数が削減されるなか、教育・研究・地域貢献など多様な活動の質・量を維持しさらに発展させるために努力していく所存です。

大学の目に見える変化についてご紹介いたします。杉本キャンパスでは学部事務室が廃止され、旧図書館が改装された「学生サポートセンター」に統合されました。学部玄関左手にあった庭は、石灯籠や樹木はそのままにしてレンガ敷きとし、玄関側の柵をなくして道路側に柵を設け、憩いの場として利用できるようにしました。

さらに特筆すべきは、既述のようにJR杉本町駅東口が新設されることです。これにより、市道に沿う学部北側通路を遊歩道として整備することになりました。ここは柵が二列に並んだ安らげる場所です。完成は2012年8月の予定ですが、その見物もかねて大学をお訪ねいただければと思います。

今後とも、生活科学、生活科学部、生活科学研究科の発展のため会員の皆様方の一層のご支援をより多く、お願い申し上げます。

ADDRESS 3

平成23年度 人間福祉学科主任

中井孝章

今年、3月11日に勃発した、あの未曾有の大震災と大津波にはじまり、原発事故と電力不足、そして台風による甚大な被害等々、日本国中が苦難と試練にさらされた年となりました。想起こそば、1995年の阪神・淡路大震災のときは人間福祉学科の学生有志が災害ボランティアに駆けつけ、被災者の方々の支援・救済にあたり、社会から高く評価されました。ところが今回は、諸般の事情から、学生たちはボランティアを躊躇・断念せざるを得ませんでした。ただそれでも、数名の学生が大阪市立大学を代表して被災地でボランティア活動に尽力してくれたことは書き留めたいと思います。

さて、今年の主なできごとですが、まずお伝えしたいことは、大学院生活科学研究科が今年4月の大学院改組により、長寿社会総合科学講座の廃止に伴い、3講座(食・健康科学講座、居住環境学講座、総合福祉・心理臨床科学講座)、4コース制(食・健康科学コース、居住環境学コース、総合福祉科学コース、臨床心理学コース)に再編されたことです。このうち、私たち人間福祉学科の教員が所属するのは、講座としては総合福祉・心理臨床科学講座、コースとしては総合福祉科学コース、臨床心理学コースのいずれかとなります。さらに、今回の改組にあたって各コースの教育研究分野も刷新しました。総合福祉科学コースは、社会福祉学、福祉政策学、福祉システム学、先端ケア学という4つの教育研究分野、臨床心理学コースは、発達臨床心理学、心理臨床学、教育臨床学、家族臨床学という4つの教育研究分野から成ります。ここに示した8つの教育研究分野は、私たち総合福祉・心理臨床科学講座(大学レベルでは人間福祉学科)の教員が議論を尽くして練り上げたものであり、学科の将来を見据えたものです。

また今年3月、総合福祉・心理臨床科学講座(人間福祉学科)では、白澤政和先生と堀智晴先生が退職なされました。長年にわたって学部ならびに学科を支えてきた重鎮の先生方が同時に退職なされたことは、学科にとって大変な痛手ではありますが、その一方で4月から若手の岩間先生が教授に昇格されました。その意味で今年も、人間福祉学科にとって新旧交代の幕開けにあたるかと思えます。

少子化・高齢化の「化」が取れて「少子高齢社会」へと移行した今日、人間福祉学科に対する要求や期待はますます高まるかと思えますが、教員一同、研究と実践への精進のみならず、少子高齢社会で活躍できる人材を輩出していく所存です。これからも、今まで以上のご支援を賜りたいと存じます。

ADDRESS 2

平成23年度 居住環境学科主任

永村一雄

今年3月に、東日本大震災ならび福島原子力発電所の被災事故が発生しました。被害を受けられた皆さまに心からお見舞い申し上げます。大阪市立大学でも、これに関するプロジェクト研究が発足し、本学科からは森先生・生田先生らが参加しております。いずれ研究成果として結実し、多くの方々に役立つものとして還元されることでしょう。

さて昨今の世情を反映して教員定数の削減が続いてきましたが、前回からでは、居住環境学科の教員数の大きな変化はありませんでした。平成22年度には宮野先生が副学長として本部理事に転出され、大阪市立大学としての活動に寄与しています。井川先生は平成21年度にご退職と同時に特任教授として教員組織に加わっていただいております。また、渡部先生が教授、酒井先生と小池先生が准教授に昇格され、教員のすべてが一丸となって教育と研究に取り組んでおります。

2004年に、他大学に先駆けて認定を受けたJABEE(日本技術者教育認定機構)についても、継続的に認定を受けており、大学院での一級建築士実務経験に関わるインターンシップ科目の設置と認定とも合わせて、教育面での充実度を向上させてきています。大学院生に加えて学部生なども対象に、国際交流を促進するための渡航費の補助制度も、多治見研究科長の発案で平成23年度からはじまっており、11月上旬に学科から2名の学生が上海で開催される国際工業博覧会でポスター説明をおこなうなど、活発な教育活動が行われております。

なお、ホームページ等でもお伝えしていますように、平成23年度から大学院のコース再編を行いました。居住環境学・居住福祉工学両コースの対象とする分野がこれまで以上に幅広くなっており、これに対応して柔軟で、しかもより高度な内容の教授を実現していくために、今回の再編を行いました。併せて、研究科内に「生活科学共同研究センター」が創設され、生活科学領域の研究・教育の総合的推進を継続・発展させていこうとしています。

これまでの伝統と実績に甘えることなく、先に述べた堅実な取り組みを生かしつつ、社会で活躍できる人材の育成に、教員一同努力していく所存ですので、これからもご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



左: 2011年、第8回居住環境デザインフォーラム 於/右: 「Rein drop (リアルサイズシンキング: 地球にやさしい住生活コペ入賞)」(大阪市役所エントランスロビーに展示: <http://2010.realsize.jp/history/2010/>)

ADDRESS 1

平成23年度 食品栄養科学科主任

西川禎一

私が赴任してから12年、その間に学科の教員数は18名から13名まで激減を余儀なくされた。

このような状況下、以前は食品コースと栄養コースの2コース制であったのを廃止し、学科の独自性を出すために管理栄養士教育体制の整備に大きく舵を取った。大学院再編により長寿社会総合科学講座が発展的に解消されたこともあって、学科教員は全員が食・健康科学講座に一本化され、専門基礎科目系4名、応用科目系3名、計7名の教授と6名の教員および4名の特任教員で任にあつた。

少子化で学生の減少が危惧されたが、幸いにこれまでのところ受験倍率も入学者の質も維持されているし、推薦入試枠の人数を2名増の8名としたが倍率は高止まりしている。有能な学生と創造性を育む教育により輩出された卒業生の中からは、型にはめられた管理栄養士とは違う光芒を放つ者も少なからず現れている。テレビを見ていると見覚えのある卒業生がインタビューを受けていたり、書店で手に取ったのが卒業生の出版物だったりする。学会で活躍する大先輩を目にするのは以前からあったが、近頃は他大学の教員や様々な機関の研究員あるいは専門的職業人として活躍する若い卒業生の姿も見られる。いずれは本学教員として戻ってきてくれる候補者がそこかしこに育っているようで、まことにうれしい限りである。昨年、学部裏を食農教育の場とすべく学生たちとボタジエ(家庭菜園)を整備し、休み時間や休日を利用して作物の栽培を始めた。昨年のオープンキャンパスでは取れたての枝豆が



参加者に好評であった。卒業生の皆さん、来校の折は声をかけてください。採れたて野菜をお土産に差し上げられるかもしれません。

むかし、むかし、その昔

(西華女学校・市立女専・市大家政学部) S24年卒有志

大

正10年4月
大阪市西区江戸堀の地に、

その辺りの子女のために、西区の有力者によって大阪市立西区高等実修女学校が設立された。

大正13年4月

大阪市立高等西華女学校と改称。校舎が立売堀に移る。

昭和9年9月

室戸台風にて校舎倒壊。

昭和12年4月

西長堀に校舎新築移転。

新築に当たっては、岩崎弥太郎氏の尽力によるものである。

当時西区には有力者が居られ、中でも西長堀の辺りは、江戸時代土佐藩の地で、岩崎弥太郎氏の旧邸があったところで、土佐の稲荷神社があり、その東側に西華女学校を、その土地をポンと大阪市内に寄付され、綺麗な校舎が新築された。

学校の正門は校舎の東側に南向きにあった。そこは別に通学門は北側に東向きにあり、門を入ると突き当たりは靴屋さん(修理)があった。そこを左に入ると全校生徒の靴箱がずらりと並んでいた。

時折その靴箱に上級生のレターが…乙女心を揺さぶった。その時廻りにいた乙女たちは「Sya」「Sya」と静かに騒いだ。

体育館では授業のある時は雑巾掛けから始まる。いろんな体育器具があったが、自由には使えなかった。印象に残っているのは「薙刀の時

間」、大きな声で掛け声と共に長い薙刀を振り上げたり振り回したり、突いたりしたものだ。上の階は講堂で出入り口の鴨居に

は「良妻賢母」「質実剛健」の額がかかっていた。ここで学ぶ900人近い生徒の多くは堅実型だった(少しもつさり気味)。

校庭はレンガ色のアンツーカーで雨が降っても水捌けが良く水たまりは無かった。パレーヤテニスのコートもすぐ準備でき、放課後は校庭いっぱい活動されていた。冬になると1時間早く来て、授業までに校庭を走った。

校庭の西門辺りに、楠・楠公夫人の座像・そして岩崎弥太郎氏の碑があった。

楠は、今なお大木に茂っている。楠公夫人の座像は、戦時中に取り除かれた。岩崎弥太郎氏の碑は、昭和12年市立高等西華女学校新校舎完成の折り、保護者が敷地内に建立したが、時を経て校舎跡地は集合住宅となり、さらに平成20年再開発の計画がスタートしたため、平成21年5月、この石碑は土佐稲荷神社の境内に移設された。

上級生は月1回くらい、1時間早く来て、隣の土佐稲荷神社の庭掃除をした。

大正10年よりこの学舎は本科生に加え家政高等科・改称専攻科・女専生の学舎となる。

そして…

昭和24年4月からは学制改革により大阪市立大学家政学部生の学舎となる。

以上

(聞き取りと思ひ出より)

戦中・戦後の激動の時代を過ごした卒業生から

M・N(S24年卒)

戦

中戦後の激動の時代を過ごした私たちは、昭和24年3月市立女専を卒業しました。現在満80歳を裕に越え、元気にこうして生活科学部の同窓会のお仲間に入れて頂いております。その昔昭和20年8月15日、今日は重大放送があるとの報に、皆一堂に会して心待ちしています。昭和天皇の玉音放送「忍び難きを忍び」が流れて来ました。敗戦の事実を知らされ、皆無念の涙にくれました。

それ以後、今迄学徒動員で軍需工場で勤労学徒として働いていたのが解除され、終戦と同時に学業に復帰することが出来ました。その間の学業の空白には埋め難いものがありました。でも先生方はそれはそれは熱心にお心を砕いて下され、それまでの空白を取り戻そうと努力して下さいました。

私たちが被服科はそれ迄和服中心の授業でしたが、時代のニーズに答えるため洋裁も取り入れようと、今は亡き林田先生が、旧東京女高師(現お茶の水女子大)の成田順先生のもとに内地留学され、スーツ等学ばれそれを持ち帰り私たちに教えて下さいました。そのテラー・スーツを女専の制服として以後長く着用しました。調理実習では、手のひら程の小さな連子鯛を苦勞して手に入れてこれれ片身は姿焼きに、一方はおつくりにと、手とり足とり教えて頂きました。野菜の煮びたしは、周辺の焼け跡に群生していたアカザという名の雑草です。

私は終戦後、疎開先広島県三次(みよし)市から帰阪して、大阪駅のプラットホームに降り立った時、大阪大空襲で焦土と化した市街地の向こうに見えたのは、南海高島屋の大きな建物だけが視界に入りました。(東日本震災の被害の惨状と同じ)学生の殆どの家は焼かれ親戚や知人を頼って疎開されたことと思います。

大阪の市街地は焦土と化しましたが、西長堀の校舎は窓ガラスや道具などが壊れたけれども被災を免れる事が出来ました。

大体この学校を希望される学生の過半数は学費が安いと、当時「良妻賢母」の教育が熱心だった事です。

戦後預貯金は封鎖され一定の額しかお金は出せません。その上食糧難、物資も不足だらけ日常生活にも事欠く有り様。ある日新聞紙上に、ひとりの裁判官が法を死守したばかりに栄養失調で亡くなられた記事が載り話題になりました。その上度々停電があり、ロソクの明かりで勉強したものでした。ある時間聞いた話ですが、中ノ島の図書館前は一晩中電灯が灯っているの、そこで試験勉強したとか…

私たちの学校は当時卒業すれば中学校・高等学校の家庭科の教員資格とも一つ得意学科、例えば国語、理科、音楽など2つも教職課程の免状が頂けたのです。

現在の生活科学部のように専門的細分科とは異なり、被服科といっても食品科学、心理学、音楽、美術など女性にとって必要な科学を熱心に授業して下さいました。生徒も先生方のご努力に答えようと熱心に授業に参加しました。でも後半は徐々にアメリカ映画も上映されるようになり(舞踏会の手帖)など映画鑑賞も楽しみました。

一方博愛精神も旺盛で戦災孤児院などに行くと、布団の縫い直しを手伝ったり、少ない小遣の中から献金もしました。卒業後は皆それぞれ教職や官公庁などに就職し少ない給料ながらも力量を発揮し上級職について停年を迎えられた事と思います。

私たちから見れば現在社会のちまたには物があふれ自由主義的風調の中に一部の人の心は荒廃しているかに見受けられ心が痛みます。今こうして過越し60有余年を省りみますと、物質的には恵まれませんでしたが心は豊かに皆仲良く肩を寄せ合い楽しく学生生活を過ごせた日々々の幸せをしみじみ懐かしく感じます。

COLUMN コラム1

第2次東日本大震災復興支援 学生ボランティア派遣事業に参加して

食・健康科学コース 教授 西川 禎一

生活科学は生活上の問題を科学的にとらえ解決を図るものと理解している。その意味で、私の本来の専門である食品微生物学も食生活の安全に関わる重要な領域と思っているが、市中をフィールドとして人間とその生活を直接の研究対象としている他の先生方を見ると思わず気後れる。そんな私が生活科学に貢献するには現実の生活の中で良知を致すしかない。大学の教職員から集まった浄財で行われる「東日本大震災復興支援学生ボランティア派遣事業」には即座に参加を決めた。オープンキャンパスを終えた8月9日夕刻、18名の学生および職員2名と夜行バスで釜石市に向かった。10・11日の両日、唐丹地区にある被災家屋の屋内瓦礫の撤去に従事した。30人がかりで1日1軒という話もあったが、猛暑の中で市大生はよく働き2日間で5軒を整理、現地解体業者さんを驚かせた。被災状況は悲惨を極め、自分の家だったら脱力して茫然自失するばかりだろう。安穩に過ごしているところから短期勝負で参加するボランティアだからこそ思いきって動けたのだと思う。一緒に片づけた被災者の方から話も聞けて、学生たちの連帯感は大阪に戻る11日の夜行バス車中でも高まり続けていた。本当の復興まで、私達が為すべきことは未だ山積している。



震災支援学生ボランティアに参加して

人間福祉学科 3回生 植内 哲平・片岡 智聡

東日本大震災の発生から時が経つにつれ、今回の震災について考えることが少なくなってきた自分に疑問を抱き何しかたくて、8月9日から震災支援学生ボランティアに参加しました。実際に自分の目で見た被災地は予想していたよりは片づいていたものの、それでも山積みになった瓦礫やボロボロになった自動車の山が あちこちにあり、復興までの道のりの険しさを改めて感じました。活動は家の瓦礫撤去をしましたが、写真などの思い出の品もたくさん出てきて、ただ瓦礫を撤去すればそれで良いのではなくそういう部分も気をつけたいと感じました。今回は少しの活動しか出来ませんでした、これからも長いスパンで私達にできる支援を続けていこうと改めて思うことができました。

COLUMN コラム2

JR杉本町駅東口設置 一足跡と今後の予定一

食・健康科学コース 教授 西川 禎一

JR杉本町駅が西口しか持たないため、駅の東側にある本学に通う学生たちは「開かずの踏切」で立ち往生する危険な状況に長年さらされ続けてきた。1999年に赴任した私はこれを問題視し、「利用者として東口設置を要求する運動を一緒に起こさないか」と学生たちに問いかけたが、皆諦め顔であり私もすぐに流されてしまった。しかし、理学研究科の村田恵三教授は1年余りに及び個人的な運動の後、2008.7.14に田畑理一教授（経済学研究科）と公式にネット上で宣言して東口設置運動をスタートされた（<http://homepage3.nifty.com/muratak/higashiguchi.html>）。私も有志として直ぐに参加した。JRや大阪市との交渉は難渋を極めたが、以前から不自由を感じていた地域住民や障害者の方々との協働により集められた1.3万人の署名は大いに威力を発揮し、5,000人以上の利用客がある駅舎には2010年末までにエレベーターをつける義務がバリアフリー新法によって自治体と事業者にも負わされたことも追い風となった。参加した教員は特技を生かしてJRや大阪市以上のデータを用意して要求に臨んだ。土地の所有関係も法務局で調べ、工学研究科の宮本佳明教授は、駅舎のあり方、学内導線、鉄道法規を調べたうえで何度も測量し図面、立体模型、経費見積もりを出して叩き台を提示された。これらの総合力が最終的には東口実現へとJRを突き動かしていった。JRの担当者は何があっても2012.7末に完成させると我々に確約し、工事の槌音が学舎に響く状況までこぎ着けている。しかし、思い起こせばいろいろあった。運動中にも若い女性が踏切事故により命を落とす痛ましい事件が発生してしまったり、生活問題の解決を重視するはずの本学部は主体的役割を果たせなかった。教員でも署名にすら協力いただけない方もいてショックを受けた。来年、東口から笑顔でスムーズに登校する学生たちを見て立ち直りたいと思っている。署名しなかった教員は今後も西口を利用するのだろうか。

NEWS おしらせ

退職者

成田義弘先生(H19年3月)
宮野道雄先生(H22年4月)
大阪市大副学長に転出
菊崎泰枝先生(H22年10月)
堀智晴先生(H23年3月)
白澤政和先生(H23年3月)
小川太佳子先生(H23年9月)

着任教員

鵜浦直子先生(H19年10月)
由田克士先生(H22年4月)
後藤佳代子先生(H22年4月)
上田由喜子先生(H22年10月)
千須和直美先生(H22年11月)
田中佑香先生(H23年10月)

訃報

小西勝一郎先生(H19年)
坂本吉正先生(H19年10月28日)
中野博光先生(H20年12月1日)
谷嘉代子先生(H21年)
小石秀夫先生(H21年3月22日)
上林博雄先生(H22年3月17日)
松平立行先生(H22年5月17日)
浦上智子先生(H22年9月3日)
丹下庄一先生(H22年10月11日)

叙勲

住田昌二名誉教授(H22年4月)
瑞宝中綬章
皆川基名誉教授(H22年10月)
瑞宝中綬章

追悼 上林博雄先生

誠に残念なことでありますが、本学名誉教授の上林博雄先生が、2010(平成22)年3月17日にご逝去されました。先生は、1920(大正9)年5月24日京都でお生まれになり、早稲田大学建築学科を卒業の後、摂南工業専門学校を経て1950(昭和25)年、大阪市立大学家政学部住居学科の講師として赴任されました。以来、住居学の発展と生活科学という学問体系の確立に大きな業績を残されましたことは、卒業生誰もが周知のことと存じます。家政学部長、生活科学部長、付属図書館長を歴任され1984(昭和59)年、定年退職されました。ご退職後も20年近く集合住宅維持管理機構理事長として積極的に住居、建築活動を実践されました。卒寿のお祝いの会に代わって、2010年6月12日に韓国からの卒業生4名を含めて約70名参加して上林博雄先生を偲ぶ会を開催し、先生のご冥福をお祈りいたしました。<D>

EDITORIAL NOTE 編集後記

阪和貨物線が、2009年11月18日に正式に廃線となり、線路の撤去も順次進められています。阪和貨物線は朝鮮戦争まっただ中の1952年9月1日、城東貨物線を延長する形で開通したそうです。当時、大阪市立大学内にはまだ進駐軍の拠点が存在しており、半島で犠牲となった米兵の搬送など、重要な役割を果たしていたと聞いています。

一方、学生時代に不便を感じていた杉本町の踏切にも大きな変化が訪れつつあります。高架は杉本町の直前で終了し踏切は存続しましたが、駅から大学が立地する東側への降り口の工事が行われています。生活科学部の北側には、ノーベル賞を受賞された南部陽一郎先生を記念した「南部ストリート」も予定されています。時代は変わります。しかし、心の中にある風景はいつまでも残るものです。時間があれば、もう一度、心に風景を焼き付けにしてください。お待ちしています。<Y>